

エコアクション21

環境活動レポート

(平成20年 1月 ～ 平成20年12月)



平成21年 5月 9日

有限会社 野中建設

※表紙の写真は、当社所在地にある「重要文化財八千代座」の外観と天井部分です。

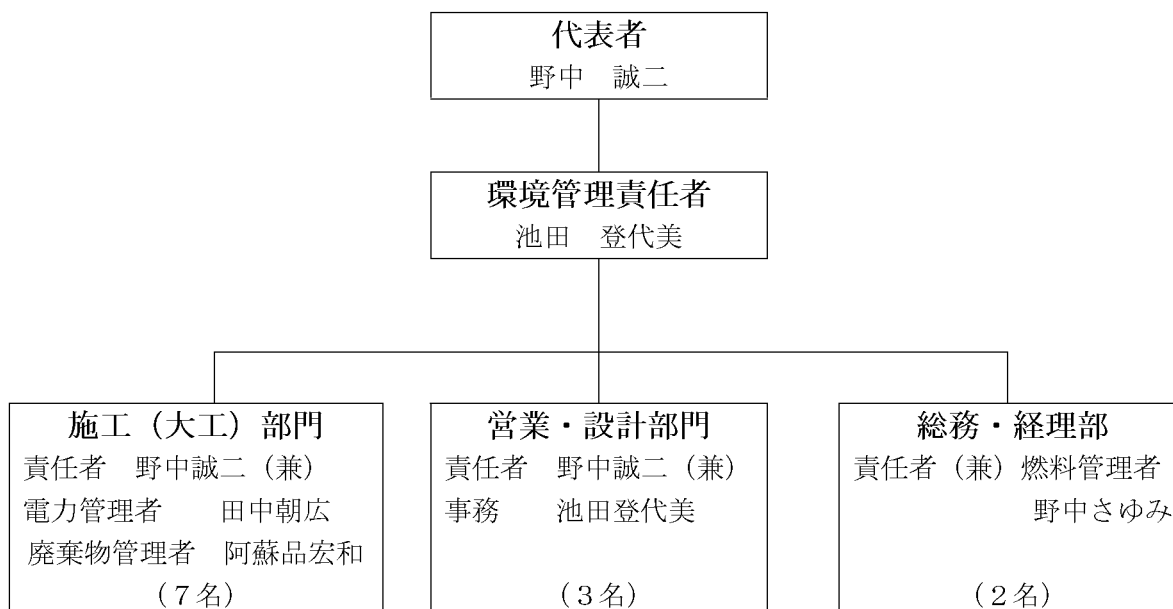
当社は、この修復工事を施工させて頂きました。

1. 事業の概要

1. 会社概要

- ①会社名 有限会社 野中建設
- ②所在地 熊本県山鹿市津留 1 7 7 4
(資材置場) 山鹿市津留 1 9 6 5 - 4
- ③代表取締役 野中 誠二
- ④事業内容 総合建設業 一級建築士事務所
- ⑤資本金 2 0 0 0 万円
- ⑥従業員数 1 2 名 (役員含)
- ⑦敷地面積 事務所 2 7 7 . 2 6 m²
資材置場 1 , 0 4 6 m²
倉庫 2 3 0 . 4 8 m²
- ⑧前年度売上高 2 0 9 , 1 0 4 千円 (平成 1 9 年 1 月 ~ 1 2 月)
- ⑨沿革 昭和 2 4 年 5 月 野中建設 設立
平成 4 年 1 月 (有) 野中建設に法人化
平成 1 5 年 4 月 代表取締役の交代
- ⑩環境管理責任者連絡先
担当者 : 池田 登代美
連絡先 : TEL 0 9 6 8 - 4 3 - 3 0 2 8
FAX 0 9 6 8 - 4 3 - 8 7 5 0
E-mail : n k o u k i s @ m u s e . o c n . n e . j p

⑪環境取組実施体制



役割・責任・権限

組 織	責任者	主な業務内容及び責任と権限
全 社	代表者	①当社の環境マネジメントの最高責任 ②環境方針の制定、環境目標及び環境活動計画の承認 ③代表者による評価の実施
	環境管理責任者	①エコアクション21の要求事項に適合した環境マネジメントシステムの構築、実施、維持 ②環境目標及び改善計画の立案と実施 ③外部からの苦情の窓口 ④教育の実施 ⑤環境問題解決及び検証の総括
	営業	①エコアクションの環境活動の紹介 ②燃料使用量の削減
	設計	①長寿命化への配慮 ②環境に有害な物質の使用排除
	施工	①廃棄物のリサイクル化の推進 ②燃料使用量の削減
	経理	①電気使用量の削減 ②電気・燃料の使用量データの管理 ③節水
	実行責任者	環境目標達成に向けた取組の推進

2. 環境方針

《基本理念》

有限会社 野中建設は、昭和24年の創業以来、技術の伝承で木造建築を主な作品とし、日本古来の文化である木造建築物の長寿命化を念頭に、人にとっての快適な住環境を整備すると共に、地域との共生を図り、緑豊かな地球環境の保全とその継承の重要性を認識し、会社及び社員が一丸となって、継続可能な循環型社会の構築に貢献することを基本理念とします。

《方 針》

有限会社 野中建設は、建設業としての事業活動を通して継続的な環境負荷の削減に取り組むために、次の環境方針に基づき環境マネジメント活動を推進して地域の環境保全に貢献する企業を目指します。

1. 当社の業務運営に関わる環境影響を常に認識し、環境汚染の予防を推進するとともに、環境マネジメント活動の継続的改善を図ります。
2. 当社に関連する環境関連法規制などの要求事項を順守します。
3. 当社の事業活動に係わる環境影響のうち、以下の項目を環境経営重点テーマとして取り組みます。
 - (1) 伝統木造住宅（エコ住宅）の普及とリフォーム工事の推進
 - (2) 建築材料の有効活用
 - (3) 工事現場における廃棄物削減のための3Rの推進（再活用・リサイクル・減らす）
 - (4) 工事現場及び事務所における省エネ・省資源活動の実施
 - (5) 建物の長寿命化のための設計・施工の研究
4. すべての社員が環境負荷低減活動を積極的に実践できるように、この環境方針を全従業員に周知します。

上記の方針達成のために、目標を設定し、定期的に見直し、環境改善活動を推進します。

改定日 平成19年7月1日
有限会社 野中建設
代表取締役社長 野中 誠二

3. 環境目標とその実績

①環境目標の設定

環境目標は、3年間の目標として環境管理責任者が環境負荷及び環境活動の状況の把握、及び評価結果を踏まえて環境方針の取組方向と整合させながら立案し、代表者の決裁を得て設定する。設定した目標は、環境管理責任者が関連部門へ通知する。設定された環境目標は、環境管理責任者が管理する。

No.	区分	19年度目標	20年度目標	21年度目標
1	二酸化炭素排出量	電気使用量の削減 (H17年度実績をベースに1%減)	(H17年度実績をベースに2%減)	(H17年度実績をベースに3%減)
2	同上	建設車両、建設機械の燃料の削減 (H17年度実績をベースに2%減)	(H17年度実績をベースに3%減)	(H17年度実績をベースに4%減)
3	産業廃棄物のリサイクル化	ボード類の100%リサイクル化	ボード類の100%リサイクル化 (別品目の可能性も探索する)	ボード類の100%リサイクル化 (別品目の可能性も探索する)

年度 項目	年	H17年度	H18. 11～H19. 3 (試行期間)		H19年度	H19年度	H20年度	H20年度	H21年度
		実績	5ヶ月目標 (17年度比)	5ヶ月実績 (11～3月)	目標 (17年度比)	実績 (17年度比)	目標 (17年度比)	実績 (17年度比)	目標 (17年度比)
二酸化炭素排出量 (kg-CO2)	電気使用量 (kWh)	36411	15380	12403	35760	31828	34102	36987	34994
	ガソリン・軽油 (L)	11536	4700	3845	11306	10085.26	11191	12297.46	11075
	廃棄物リサイクル (%)	—	計測 調査	計測 調査	ボード類 100%	ボード類 100%	ボード類 100%	ボード類 100%	ボード類 100%

※総排水量につきましては、弊社は、上水道ではなく、地下水を自社で汲み上げて使用しております。現在水道メーターがないのでデータがありません。

現場も仮設トイレは汲み取りをしているのでデータがありません。従って総排水量は実績が把握出来ない為目標設定ができません。しかし、従来通り節水に取組み削減に努めてまいります。

※(1) 伝統木造住宅(エコ住宅)の普及とリフォーム工事の推進及び(2) 建築材料の有効活用は我社の事業活動としてすでに実施済の為、今回は改めて目標設定しておりません

※平成19年1月より電動シャッターを新設したので、新たに40Aの契約をした為目標の見直しをしました。これにあわせて二酸化炭素の排出量の適正な評価をする為に平成17年度の二酸化炭素排出量の実績値も見直しました。

※平成20年1月より軽油車両1台をガソリン車両に入れ替えた為目標の見直しをしました。これにあわせて二酸化炭素の排出量の適正な評価をする為に平成17年度の二酸化炭素排出量の実績値も見直しました。

4. 主要な環境活動計画の内容

- ① 工事現場における廃棄物削減のための3R
 - ・再活用・・・学校行事への廃材の寄付
 - ・リサイクル・・・「プラスターボード」のリサイクル化
(ボード類の適正な業者への100%リサイクル化推進)
 - ・減らす・・・上記の活動を通じて廃棄物の削減に努める。

- ② 工事現場及び事務所における省エネ・省資源活動の実施
 - 《電力》
 - ・空調温度の適正管理
 - ・エアコンのフィルターを定期的に清掃する
 - ・不要な照明器具の消灯確認する
 - ・パソコンのスタンバイ機能を活用する
 - 《燃料》
 - ・アイドリングストップを励行する
 - ・急発進、急加速、急ブレーキの撲滅
 - ・オイル交換・オイルエレメント交換の定期的な実施
 - 《水》
 - ・水を使用する場合は、流しっぱなしをやめ、水量を調節し節水をする

- ③ 建物の長寿命化のための設計・施工
 - ・建築設計時の環境配慮の実行
(「プラスターボード」から木品材料の使用推進など・・・)

5. 環境活動への取組結果の評価

① 工事現場における廃棄物削減のための3R

(再活用)

廃材を学校行事で使いたいといわれたので、再活用してもらおう為にも寄付した。
今後も積極的に学校行事へ廃材の寄付をしていく。

(リサイクル)

産業廃棄物として当社はボード類・コンクリートがら・木屑・金属屑を排出しているが、委託業者とのリサイクル化に向けた業者調査を平成18年11月～平成19年3月まで実施した結果ボード類の100%リサイクル化の可能性がでてきた。
よって平成19年4月からはこの実現化に向けて取り組んできた。
リサイクル化に向けた業者調査前は、ボード類のリサイクル率が0%だったのが、平成19年4月からはボード類のリサイクル率は100%となった。
今後もボード類の100%リサイクル化の定着に取り組んでいくとともに、ボード類の適正な業者への100%リサイクル化推進に努め、1人1人がリサイクル化への意識を高め、他品目の100%リサイクル化も探索していく。

(減らす)

上記の再活用・リサイクルの活動を通じて廃棄物の削減に取り組んできた。
今後もこの活動を通じて廃棄物の削減に努めていく。

② 工事現場及び事務所における省エネ・省資源活動の実施

(電気)

電気について目標 17 年度比 2%削減に対して、平成 20 年度は 1%の削減にとどまりました。

原因としましては、今年度は、お寺の大きな物件を手がけたこともあり、木材 1 つ 1 つが大きく、木材の量も多いのもあって、加工にも時間がかかり機械等の稼働時間が長くなった為だと思われます。

今後も、工事物件により機械の稼働時間が変動しますが、E A 2 1 の意識を持ち、全社員で節電に取り組んでいきます。

(燃料)

燃料については目標 17 年度比 2%削減に対して、平成 20 年度は 6.2%も目標値を上回ってしまいました。

原因としましては、上記にも書いてるように今年度は、お寺の大きな物件を手がけたこともあり、木材 1 つ 1 つが大きく、遠方に仕入れ・加工に行ったり、

木材の量も多かった為、現場と会社の木材輸送回数が増えた事と同時に、この工事現場が遠方だったのもあり、

自動車走行距離が長くなる＝燃料使用量が増えたからだと思われます。

今後も、このように工事物件の大きさや、工事現場によって自動車の稼働回数や燃料使用量が増えたり減りますが、これからも全社員が E A 2 1 の意識を持ち、各自のちょっとした心づかいから環境を考えた行動（アイドリングストップ・急発進・急停止の自粛など）＝エコドライブに取り組んでいきます。

(水)

総排出量につきましては、弊社は、上水道ではなく、地下水を自社で汲み上げて使用しており、実績が把握出来ない為目標設定ができませんでした。

しかし、今後も全社員で節水の意識をもち、従来通り節水に取組み削減に努めていきます。

③ 建物の長寿命化のための設計・施工

建物の長寿命化につきましては、建築設計時に環境に有害な物質の使用排除をし、環境配慮したプランを考え、お客様に提案する時に自社がエコアクション 2 1 を取得し、環境活動をしている事を紹介し、施工中はお客様との打合せ時に、環境配慮を考えた材料の使用推進をしてきました。

今後も建物の長寿命化・継続的な環境負荷の削減に取り組んでいく為にも、環境配慮を考えたプランを推進していく。

6. 環境関連法規制の順守状況

環境関連法規制などへの違反はありません。

また過去3年間において関係機関からの指摘・訴訟などは1件もありませんでした。

これからも法の遵守には努めてまいります。

7. その他

以上